



【父の死と留学編】

世界最高の学者に学ぶ

1882 (明治15) 年7月、東京大
 理学部初の卒業生となった田中館愛
 橘は直ちに准助教を命じられる。国
 家のための人材育成は急務であり、山
 川健次郎教授らと共に後進の指導や体
 制作りに励む。同年9月、長岡半太郎
 (後の理論物理学者)らが入学する。
 田中館は学生時代の寄宿舎にそのま
 ま長岡を迎え、同室で暮らす。早朝か
 ら夜中まで、二人は常に勉強をしてい
 た。その姿に学生たちはあきれたが、
 背中に学びその後を追った。1883
 (明治16) 年12月5日、郷里福岡 (現
 二戸市) で父稻蔵が亡くなる。割腹自
 殺であったが遺書に理由はなかった。

知らせを受けた田中館は直ちに帰
 郷。船や馬車を乗り継いで夜も走り、
 雪をかき分け、14日ほどの冬の旅程を
 5日で駆け付けた。葬儀万端を済ませ
 た27歳の田中館に、同27日付で助教
 の命が下る。父稻蔵の息子への思いを
 知る郷里の人々は、この辞令が一月早
 ければと涙した。

物理学はルーツが哲学にあり、物の
 理 (ことわり) を極める学問として確
 立されたという。19世紀は「形無い物
 を極める物理学」の時代でもあった。
 1888 (明治21) 年1月、32歳の
 田中館は「電気及磁気学修行トシテ満
 三ケ年英国留学ヲ命ス但グラスゴ―大
 学ニ於テ修行スベシ文部大臣子爵森有
 礼」という7日付の辞令を受ける。
 イギリスのグラスゴ―大学に留学し
 た田中館は最先端の物理学を学ぶ。何
 よりの幸いは、世界最高の物理学者で
 あったケルビン卿 (ウィリアム・ト
 ムソン) 絶対温度・大西洋横断ケーブ
 ル敷設) から直接学んだことだった。
 田中館は物理学ばかりか生き方までも



34歳のときの田中館愛橘。イギリスのグラスゴ―
 大学からドイツのベルリン大学に移ったころ 1890年 (田中館愛橘記念科学館提供)

影響を受け、生涯ケルビン卿を尊敬し
 てやまなかった。
 1890 (明治23) 年3月、田中館
 はヘルムホルツ (生理学者・物理学
 者) のいるドイツのベルリン大学に転
 学し、1年間電気学などを学ぶ。
 1891 (明治24) 年7月に帰朝し
 た田中館は22日付で教授を拝命し後進
 の指導に当たる。これまでのお雇い外
 国人教師たちに頼らない、日本人によ
 る日本の物理学の始まりであった。田
 中館は山川教授の指名で翻訳委員も務
 め、物理学教科書の日本語化にも努め
 た。
 一方ではケルビン卿に学んだ一般の

ための通俗科学講演を行い、その普及
 にも汗をかいた。100年遅れた西洋
 に追いつき追い越すために成すべき事
 は山のようにあったが、田中館は「今
 やらねば」の覚悟で取り組んで行った。
 (中村誠 田中館愛橘会事務局長)

【ミニコラム】 「腑に落ちなかった」

聖書学も入信せず

多くの西洋人たちとも接した田中館愛橘は「随分キリスト教への入信を勧められた」と述べている。西洋人の多くが信じる宗教だから、いいところがたくさんあるに違いないと、日曜には教会にも行き信者を観察し、聖書も学んだという。「けれどもどうしても自分には腑に落ちず、ついに入信しなかった」と残している。
 田中館は神社で遊び、お神楽が大好きな子ども。生母キセは現在の二戸市にある呑香稻荷神社の娘だった。